

『巡検会報告』

「赤崎層、白岳層の境界付近の貝化石」

熊大、教育 一瀬 めぐみ

5月24日(日)に行われた今回の巡検は、参加者22名で、岩崎泰頼先生に案内をして頂いた。天候にも恵まれ、午前9時に6台の車に分乗し、熊本大学教育センター前を出発した。今回の巡検の目的は、赤崎層と白岳層の境界付近の貝化石群集の観察と化石を採集することである。

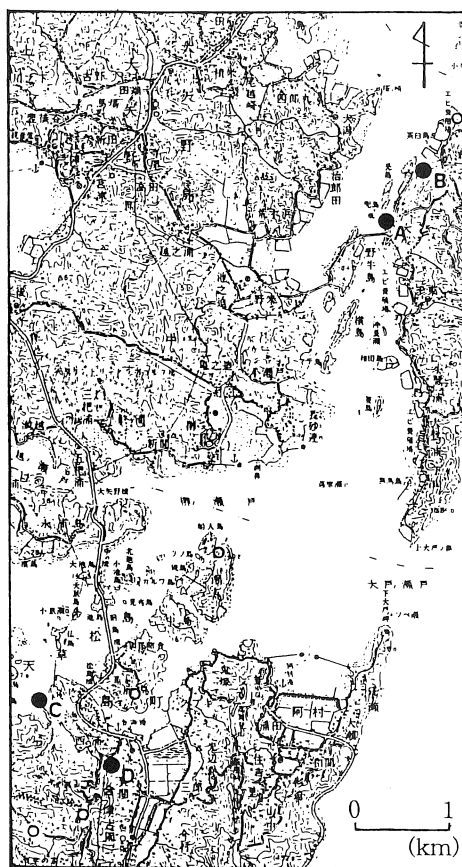
午前中は、大矢野維和島の大桜(図1地点A)と梅ノ木(図1地点B)において化石採集を行った。大桜と梅ノ木の海岸にはかつて、保存のよい化石を産出する露頭があったのだが、新しい道路が作られたために、現在では海岸線沿いで化石が産出するのみであり、その保存もよくない。しかし、*Turritella*などの巻貝や小型の二枚貝を採集することができた。その後、場所を松島にうつし、西の浦の海岸で昼食をとり、午後は西の浦(図1地点C)と千歳山(図1地点D)において化石採集を行った。西の浦の海岸では主に *Cerithium* などの巻貝が多く見られ、千歳山では *Anomia* sp. *Septifer* sp. などの二枚貝化石を沢山採集することができた。しかし最近では千歳山の露頭も掘削や浸食などにより、以前ほど化石も採れなくなってきている。

今回はこの4地点で化石採集を行ったが、それらは、赤崎層に相当する部分(天付付近の岩層と同じ暗緑灰色泥岩と基底部とレキ岩層から構成される)とその上位の白岳砂岩層にあたる地点である。(福連木層と呼ばれる。松下ほか、1959; 三木・田代、1979)。それらの地点から産する動物群集は福連木(フクレギ)動物群(長尾; 1926)とよばれ、九州の古第三系の貝化石群集の中で最も古いものである。また、これは汽水生動物群と考えられているが、産出化石はたいへん小さく、保存も良くないため、実際に確認することは難しい。これら小型の二枚貝化石とさらに、共産する巻貝化石は大型であり、これらの化石がどのような環境で堆積したのかという問題が残されている。

最後の露頭、千歳山での採集を終え、現地解散となった。各車とも無事大学まで到着し、巡検は無事終了した。

今回の巡検に参加し、目的である赤崎層と白岳層の境界付近の貝化石を採集することができたが、先にも述べたように化石産出露頭が失われたり、その状態が悪くなっていることも痛感した。このような状況のもと、採集した化石は、貴重であり、大切に保管するとともに自分の勉強に役立てたいと思う。

最後に、蒸し暑いなか終始丁寧な案内して頂いた岩崎先生に感謝の意を表し、巡検会の報告とする。



(国土地理院発行1/50,000の地形図を引用)
図-1 露頭観察地点および化石採集地点

発行所

熊本地学会誌	No. 118
熊本市黒髪2丁目	熊本大学教育学部
地学研究室内	熊本地学会
TEL 344-2111	振替01960-2-5359